

企業価値創造の実態についての質問調査

アンケート調査結果のフィードバック

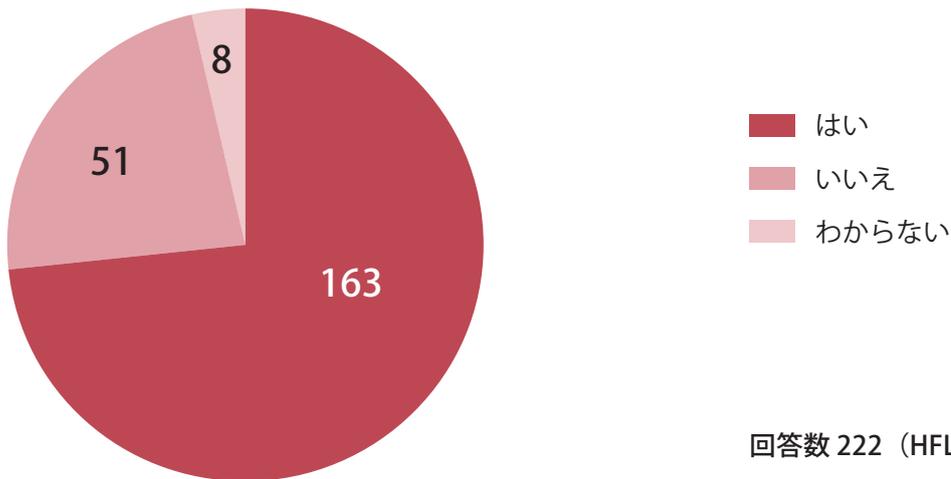
2025年1月

一橋大学 CFO 教育研究センター

本調査は、ファーストアカウンティング株式会社との共同研究の一環で実施しています。

質問 1

御社では ROIC など資本生産性を意識した経営を実践していますか。



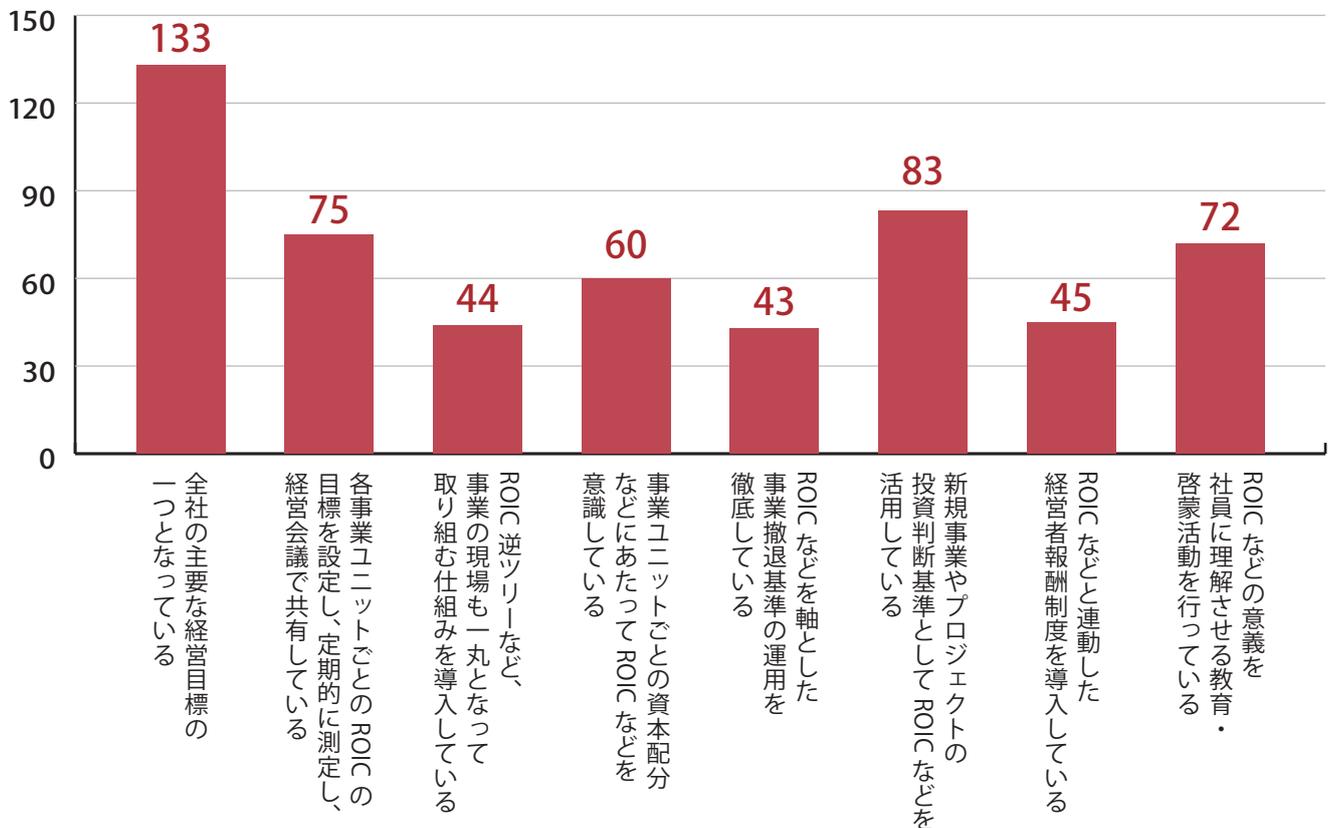
回答数 222 (HFLP 修了生・受講生)

生保協会の調査では ROIC を経営目標としている企業の割合は 3 割、ROE を経営目標にしている企業の割合は 6 割であるのに対して、受講企業を分母と考えると全体の 9 割が資本生産性を導入。

質問 2

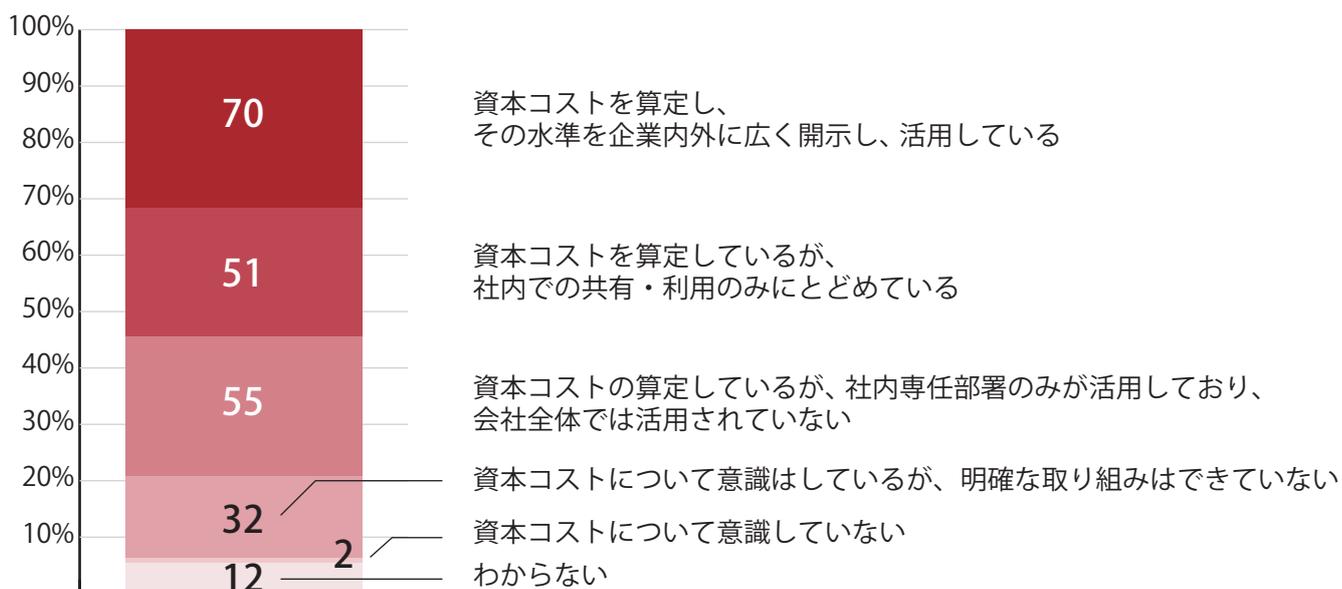
1で「(1) はい」と回答した方にお伺いいたします。

ROIC などの資本生産性にかんする指標をどのように活用していますか。該当するものすべてにチェックを入れてください。



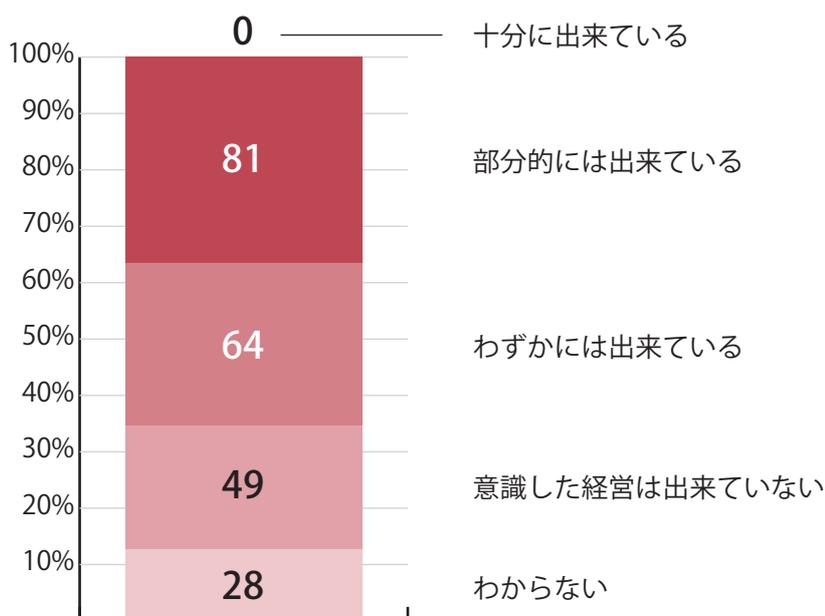
資本生産性指標を意識している企業の 8 割が全社目標に位置付けているものの、それらを運用のレベルにまでブレークダウンできている企業の割合は 3-6 割程度と十分な水準に至っていない。

質問 3 御社における資本コストに対する取組の現状に最も近いものを下記から一つチェックしてください。



資本コストを企業内外で共有している企業が 3 割強、全社的に活用しているのが 5 割強、専任部署のみの活用まで含めると 8 割。受講者企業の大半は**資本コストの重要性を理解し、活用している**と推測できる。

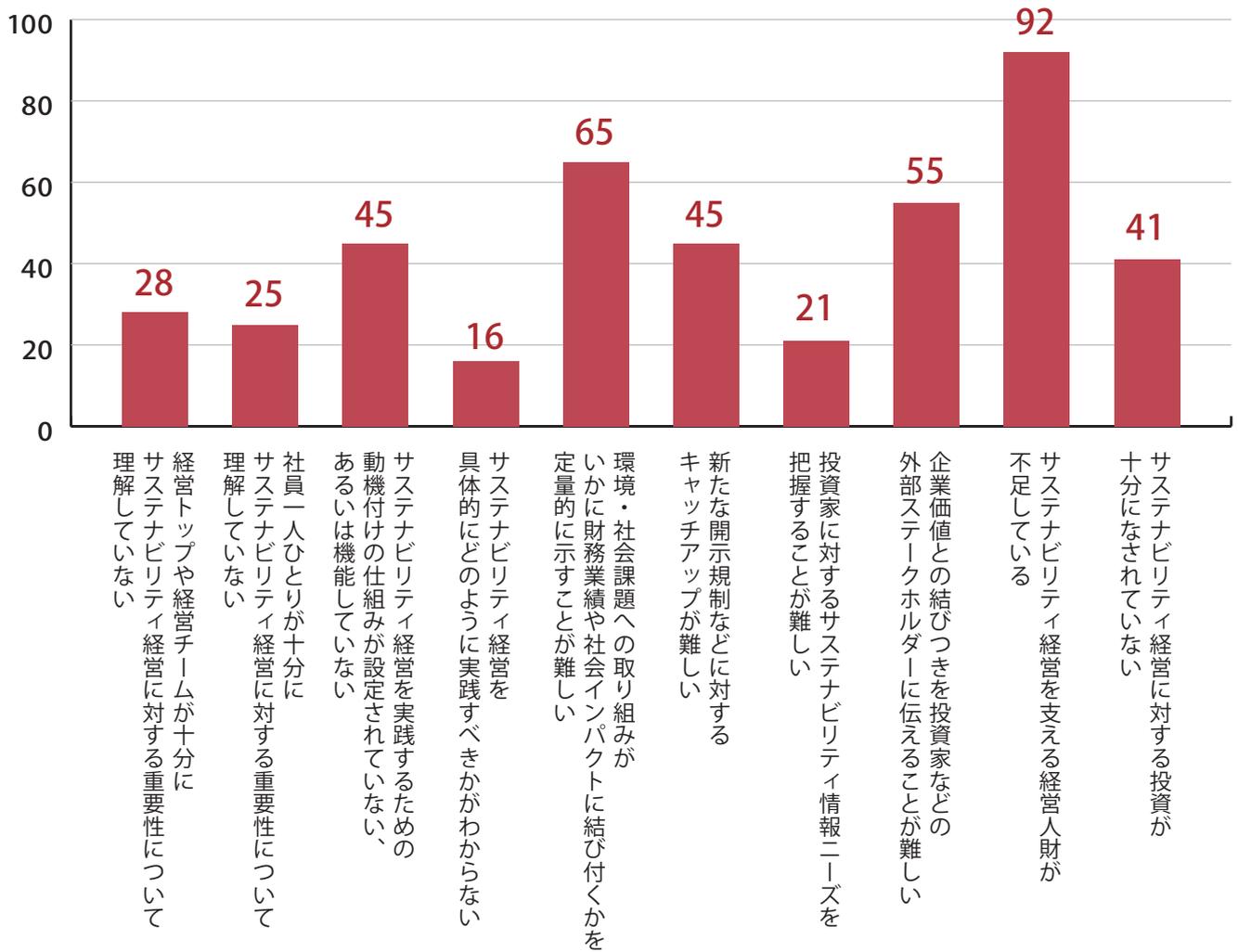
質問 4 御社では経理業務の照合や自動化に AI 化を活用できていますか。



ROIC 経営や資本コストを意識した経営を実践するためには、従来実施してきた経理業務を AI などを活用し、自動化し、より経理担当は FP&A など価値創造をけん引する役割を担う必要があるが、その点は**十分に進展していない可能性がある**。

質問 5

御社におけるサステナビリティ経営に対する取組で課題になっているものすべてにチェックをいれてください。



サステナビリティ経営の実践のためには、それをけん引する人材育成とその基盤となるデータベースの仕組みが不可欠であるが、多くの企業ではその実践に向けた基盤整備には課題を抱えている可能性がある。

調査結果 概要

生命保険協会における「企業価値向上に向けた取り組みに関するアンケート」では ROIC を経営目標としている企業の割合は 3 割、ROE を経営目標にしている企業の割合は 6 割であるのに対して、受講企業を分母と考えると全体の 9 割が資本生産性を導入。

資本生産性指標を意識している企業の 8 割が全社目標に位置付けているものの、それらを運用のレベルにまでブレイクダウンできている企業の割合は 3-6 割程度と十分な水準に至っていない。

資本コストを企業内外で共有している企業が 3 割強、全社的に活用しているのが 5 割強、専任部署のみの活用まで含めると 8 割。受講者企業の大半は資本コストの重要性を理解し、活用していると推測できる。

ROIC 経営や資本コストを意識した経営を実践するためには、従来実施してきた経理業務を AI などを活用し、自動化し、より経理担当は FP&A など価値創造をけん引する役割を担う必要があるが、その点は十分に進展していない可能性がある。

サステナビリティ経営の実践のためには、それをけん引する人材育成とその基盤となるデータベースの仕組みが不可欠であるが、多くの企業ではその実践に向けた基盤整備には課題を抱えている可能性がある。

ROIC や資本コストを意識した経営、あるいはサステナビリティ経営などを通じた価値創造を実践するためには、経理・財務人財は、従来業務をできる限り効率化させ、経営変革を支援するための新たな役割を積極的に果たす必要がある。そのための基盤をいかに構築していくかが解決すべき課題の一つとなる。